

科学技術とものづくりの最先端で活躍している九州工業大学の卒業生を、シリーズで紹介いたします。第1回は新日本非破壊検査社長の中山安正さん。物を壊さないで検査する非破壊検査の可能性を探っています。



新日本非破壊検査株式会社
代表取締役社長
中山 安正さん(63)

(九州工業大学大学院工学研究科修士課程金属工学専攻修了)

**装置開発が
強みの一つに**

火力発電所や化学プラントのボイラー、配管、反応塔にひび割れなどのキズが発生していないかを検査して、設備の安全操業に役立てるのが当社の主力業務です。エックス線写真を撮影して、設備を壊さずにキズを見つけるのは非破壊検査の一つの手法です。超音波や磁気を用いた検査方法も使用します。さらに検査装置を開発・製作するメカトロニクス業務にも取り組んでおり、自社開発の装置を使うことで信頼性の高い特徴のある検査が提供できる検査会社になっていると自負しています。

私は入社後、プラント建設現場などで非破壊検査の実務を経験した後に、大阪の研究施設で超音波を利用した新しい検査方法の試験研究に取り組みました。入社から9年目の1984年に「社内に新しい事業を開拓しよう」と非破壊検査装置の開発および製造部署として、メカトロニクス部が活動を開始、その立ち上げに参画しました。50年以上にわたり培ってきた

あらゆるトライが、ものづくりを支える

現場のノウハウを結集した製品は、今では「検査屋が作った検査装置」として好評をいただいております。強みの一つとなっております。

**早くさい毎日が
楽しかった学生時代**

私は子どものころから自動車などのメカにも興味があり、自然に理系の大学を志望しました。九工大入学後は、高校から続けていたラグビー部に入りました。決して強いチームではありませんが、愉快で前向きなメンバーが多く、ラグビーを楽しめたのは素晴らしい経験でした。

1〜2年次は一般教養の授業が多かった他大学と違い、1年次から専門的な授業を受けられた九工大は私に合っていたようです。私のづくりに興味を持続して、学生生活を送りました。4年次には、重厚長大なもののづくりの分野を目指して溶接研究室に入り、迎静雄教授(当時)、加藤光昭助教(同)および西尾一政助手(同)にご指導をいただきました。取り組んだ課題は、アルミニウムや鉄鋼の溶接性に関する研究です。溶接部

のキズを検出して溶接構造物の品質管理に利用するのにも非破壊検査の主要な用途で、研究室で習得した材料や溶接部のキズに対する知識は、卒業して40年近くを経過した今でもいろいろな場面で役立っています。

研究室では、熱処理に使用する電気炉を自分で手作りし、熱処理の温度を保持するために泊まりがけで電流を調節するなど、今では考えられないような実践環境でした。そんな中で男くさい仲間たちと熱心に議論したことが思い出されます。卒業後の現在も、クラブ仲間はもちろん、先生方や同期とも交流が続いています。このネットワークが私の心強い大きな財産です。

「やりたいことが、よく分からぬ」という若い人々には、立ち止まることなくいろいろなことにトライすることを勧めます。その中から楽しんでほしい。そこで見つけた疑問を解き明かして新しい発見につながる力が、理系のパワーであり、この好奇心が、日本だけでなく世界のものづくりを支えるものだと思っています。

**明日と、世界と、夢と、
つなげる九州工業大学**

九州工業大学過去5年間就職先 **トップ15**

順位	企業名	就職者数
1	日立製作所	86
2	三菱重工業	72
3	三菱電機	50
4	九州電力	49
5	新日鐵住金	37
6	トヨタ自動車九州	36
6	本田技研工業	36
8	オービック	33
9	日立ソリューションズ	30
9	三菱自動車工業	30
11	アイシン精機	28
11	NTTデータ	28
11	九州日本電気ソフトウェア	28
14	東芝	27
14	富士電機	27

※就職者数:平成21年~平成25年3月卒業・修了者

国立大学法人 **九州工業大学**

■工学部 機械知能工学科/建設社会工学科/電気電子工学科/
応用化学科/マテリアル工学科/総合システム工学科
■情報工学部 知能情報工学科/電子情報工学科/システム創成情報工学科/
機械情報工学科/生命情報工学科
■大学院 工学府、情報工学府、生命体工学研究科
〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1
TEL.093(884)3056(入試課) 093(884)3007(総務課)

九工大 検索 

<http://www.kyutech.ac.jp/>